



* 夏休み (LES VACANCES D'ETE)

小、中学校は7月4日から9月3日迄夏休みに入り、バカロレア(大学入学資格試験)の結果も発表され、617,900人、全体の87,8%が目出度く合格しました。私が利用している郊外電車 RER(Réseau Express Régional)B線のダイヤが普段の12分から21分間隔となり、乗客の顔ぶれも変って、聞き慣れない言葉も賑やかな車内に夏休みを感じています。線路際の土手には夏草が生い茂り、早くも枯れ始めた様です。車や人の行き来が少なく



るこの時期を狙って、市内各所で道路や線路工事が行われ、メトロが一部運休したり(*)、バスの経路が変更されたり、思わぬ所で渋滞にあたりするの、夏休みならではの事です。全国各地からの観光客が思い思いの服装で巡り歩く姿に、自分も観光客の一人になって気ままに歩いてみるのも、なかなか好いものです。日本は梅雨が明けて、セミ(la cigale)の声が一層暑さを感じさせている頃と想像しますが、こちらは、それだけ北に位置しているからでしょう、南仏へ行って初めてセミの声、それも低い調子ですから、セミと気が付かないこともあります。(*) RER A線: 7月25日-8月23日の期間 La Défense - Auber(Opéra)間運休。メトロ5号線は7月18日-7月20日の3日間全線運休。その他ご利用には駅や車内の掲示案内にご注意下さい。

* 酷暑 (LA CHALEUR CANICULAIRE)



6月20日を過ぎた頃から日中の気温が25°Cを超える“夏日”(les journées estivales de plus de 25°C)となり、6月30日には36°C、そして7月1日にはパリでも40°C、郊外のサン・モール市では40,7°Cを観測、1872年以来の暑さを記録、パリ・マッチ誌に「パリは燃えているか」(Paris brûle-t-il ?)と題した特集記事が載った程の酷暑“カニキュル”が約10日間続きました。電車のレールや架線が溶けて変形(les rails et les caténaire se déforment)して大幅な遅れを出し、車内で気分が悪くなっ

た乗客も多数出た様ですが、幸い2003年の様に多くの死者を出すことも無く、パリ市内4ヶ所の大きな公園: モンスリー(14区)、アンドレ・シトロエン(15区)、モンソー(8区)、ビュット・ショーマン(19区)は夜間も開放され、暑くてアパートにいられなくなった人達が“お祭りだ”(C'est

la fête)と集まって、陽気に納涼ピクニックをして過ごしました。市内・郊外 300ヶ所にある消火栓(les bornes à incendie)はカづくで開けられ、水が勢いよく噴出して大きなシャワーとなり、道路一杯に水が流れ、お父さん達までが童心に返って(les pères de famille retrouvent leur âme d' enfant)子供達と一緒にってはしゃぐ場面も多く見られました。7月も8日頃から気温が平年並みに落ち着き、既に秋の様だ、と寛いでいますが、各地ともすっかり乾燥してしまい、このあたりでひと雨欲しいところです。尚、普段は21時頃には閉まるパリ市内の大きな公園(前述4ヶ所)は気温が街中よりも2℃から3℃低い(la température est inférieure de 2 ou 3 degrés par rapport aux rues alentours)自然の空間として、この機会に8月末日迄の木、金、土曜日の3晩は、パトロールを強化、屑籠を増やして(les patrouilles sont déployés et des poubelles supplémentaires mises en place)終夜一般に開放されています。

* ツール・ド・フランス 2015(TOUR DE FRANCE 2015)

恒例の夏の呼び物、しかし毎年ドーピング(le dopage)騒動で話題となる自転車のロードレース“ツール・ド・フランス”、第102回の今年自転車町のユトレヒト(Utrecht, Pays-Bas)を7月4日にスタート、ベルギーのアントワープ(Anvers, Belgique)などを廻って7日にフランスに入りカンブレ(Cambrai)着。その後大聖堂で名高いアミアン(Amiens)、世界遺産の港町ルーヴル(Le Havre)、ソフトなチーズで知られるノルマンディ地方のリヴァロ(Livarot)、ブルターニュ地方のレンヌ(Rennes)やヴァンヌ(Vannes)を巡り、12日には飛行機で一気に南下してポー(Pau)へ飛び、スペインとの国境ピレネー山脈の難所を上がり下り、今日はアヴェイロンのロデス(Rodez, Aveyron)に向っています。これからローヌ河沿いのヴァランス(Valence)を



ギャップ(Gap)からアルプス入り、厳しい峠をいくつも越えて25日にアルプ・デュエス(Alpe-d' Huez)に達するや又飛行機でパリ近くのセーヴル(Sèvres)へ。7月26日(日)最終コースを愈々パリへ入り、ルーヴル宮から凱旋門のシャンゼリゼ大通りを8周、全行程3360kmを走破してゴールします。レースの様子は日本でもTV中継が見られるようですが、沿道の景色や名所旧跡、城館なども歴史を交えた解説で映してくれますので、なかなか見応えがあり、楽しみです。尚、昨年まで3年連続で出場した新城幸也選手は不参加、今回日本人選手は誰も出場せず残念です。

* “理想の宮殿” (LE PALAIS IDEAL)



パリから南へ 545 km、リヨンから 85 kmの所にあるオートリヴ(Hauterives)と云う小さな田舎町、そこには今や有名となった“理想の宮殿”があります。幅 14m、奥行き 24m、高さ 10mの小さな宮殿は、勿論シャンボール城やヴェルサイユ宮殿とは比較になりませんが、この町の郵便配達を務め、皆から“配達夫シュヴァル”(Facteur Cheval)と呼ばれて親しまれたフェルディナン・シュヴァル(Ferdinand Cheval (1836-1924))が 43 才の 1879 年 4 月のある日、配達からの帰りの路傍に見つけた奇岩から、その昔夢に見たお伽の宮殿が胸に蘇り、それから石を積み重ねることから始めて実に 33 年の年月をかけ、自分の手一つで造り上げた“理想の宮殿”なのです。誰の手を借りることも無く、時にはローソクの僅かな光を頼りに夜を徹して作業に勤しみ、石灰、モルタル、セメントで石を固め(Les pierres ont été asse, blées avec de la chaux, du mortier et du ciment)遂に 1912 年、夢見た理想の宮殿が出来上がりました。東正面は完成に 20 年を要しましたが、ローマ皇帝シーザー、古代ギリシャの数学者アルキメデス、そしてガリアの族長でローマに反抗したヴェルサンジェトリックスの三体の巨人像が塔を支えて立ち、西の正面の壁の窪みにはスイスの山小屋、イスラム寺院のモスク、中世の城館、インドの寺院を模して世界を表わす、等々それなりの理想が施されています。しかもこの宮殿はピカソ、マックス・エルンスト、ニキ・ド・サンファール等に大いに影響を与え、又、素人によるナイーブな建築の唯一の存在として 1969 年、当時の文化相アンドレ・マルロー(André Malraux(1901-1976))により“歴史記念建造物”に指定されました。(le Palais fût classé « monument historique » en 1969) 《 Palais Idéal du Facteur Cheval 》
8, rue du Palais, 26390 Hauterives , www.facteurcheval.com/
Tel. 04 7568 8119, 毎日 09 時 30 より 18 時 30 (季節による)、入場料=大人 6,50 小人 5,00

2015 年 7 月 17 日(金) Sainte Charlotte 日の出 06 時 05 ・日の入 21 時 47 天気 : パリ 20℃/32℃晴天、ニース 24℃/29℃晴天、ストラスブール 18℃/36℃晴天、コタンタン 15℃/20℃曇天「皆様お元気で」(菅)